

番号	区分	科名	和名(別名、流通名)	学名	特定外来生物	定着段階	定着段階に関するコメント	特に問題となる地域や環境	生態系への影響	経済・産業被害	人への被害	対策の優先度	対策方法: 対策実施時の注意点など(分類により取扱いが異なるため、具体的な記載が可能なもの記載)
1	対策優先種	サンショウモ	外来アブラモ	<i>Azola</i> spp.	一部	定着	緑化事業は少ないが、水害を覆うような繁茂もある。	溜池・溜田	◎	○	△	○	水面を覆い尽くすように速やかに増殖する。植物体が小さく、気づけずしたため、1回の駆除作業で全てを回収することは難しい。監視と回収を繰り返すことが必要。水域での駆除作業になるため安全確保が必須。まずはアブラモは水田から退出させないための対策を実施させる必要がある。
2	対策優先種	サトイモ	ポタノキクサ	<i>Pilea stratiotes</i>	○	定着	太田市で越冬記録あり。東毛や西毛の他の地点でも退出記録あり。	池沼	◎	○	△	○	現状では県内の侵入地での駆除は完了している。再侵入があった場合、早期に駆除しないと逃げ分かれて迅速に拡大し、夏季には水面一面に状態となり駆除が困難となる。今後県内に放逐しないことが重要である。
3	対策優先種	アリノコグサ	オオナガモ	<i>Myriophyllum aquaticum</i>	○	定着	前橋市東部および富岡市の複数地点でクローン形成	池沼・平地河川	◎	○	△	○	人為的擾乱のある池沼・水路に速やかに侵入し広分布する。まずは当該地の特定と監視が必須。再生力が高いため、駆除には複数回の引き抜き完全撤去が必要。水域での駆除作業になるため安全確保が必須。
4	対策優先種	ウリ	アレナウリ	<i>Sicyos angulatus</i>	○	定着	平野部の川沿いを中心に標高600m以下に広く分布する。	河浜、耕作地周辺	◎	○	○	○	人為的擾乱地(工事、狭小、河川敷など)に速やかに侵入し広く分布するため、まずは当該地の特定と監視が必須。一年草であるが種子寿命が非常に長く、発見時は巨大化してしまっていることが多く、群生し更に大量の種子を散らすため、駆除には複数年、つるの伸長前に葉を全て引き抜くことが必要。つるを刈り払っても萌芽・開花・結実するもので効果がない。また茎の毛が刺さると皮膚を傷めやすいため、特に結実前の駆除作業は必須。
5	対策優先種	ゴマノハグサ	オオナガシヤ	<i>Veronica angustifolia</i>	○	定着	沼田市・高崎市(旧榛名町)より下流側の河川に広く定着。また長野県でも部分的に定着。	平野部の河川、特に関わんどや雑居	◎	△	△	○	人為的擾乱のある池沼・水路に速やかに侵入し広分布する。まずは当該地の特定と監視が必須。秋に発芽し冬に越冬する。また大量の種子を散らすため、駆除には複数年(開花前)の引き抜き完全撤去が必要。刈り払いでは萌芽・開花・結実するもので効果がない。水域での駆除作業になるため安全確保が必須。多量の種子を散らすため、駆除には複数年(開花前)の引き抜き完全撤去が必要。地下部でも根茎を埋めカブチンと発生しているため、葉と花の根茎の両方から駆除しなくてはならない。そのため、種子が形成されるまでの花前駆除作業を行う必要がある。
6	対策優先種	キウ	オオナグキク	<i>Oenothera lanceolata</i>	○	定着	金糸の路傍や河川沿いに広く定着。	河川軸	◎	△	△	○	人為的擾乱のある池沼・水路に速やかに侵入し広分布する。まずは当該地の特定と監視が必須。秋に発芽し冬に越冬する。また大量の種子を散らすため、駆除には複数年(開花前)の引き抜き完全撤去が必要。地下部でも根茎を埋めカブチンと発生しているため、葉と花の根茎の両方から駆除しなくてはならない。そのため、種子が形成されるまでの花前駆除作業を行う必要がある。
7	対策優先種	キウ	ヒトコマリ	<i>Quercocarpus satenobasis</i>	○	定着	平野部(藤岡市・佐野市)より下流側の河川に広く定着。	平野部の河川、特に関わんどや雑居	◎	△	△	○	人為的擾乱のある池沼・水路に速やかに侵入し広分布する。まずは当該地の特定と監視が必須。無性繁殖による群生し更に大量の種子を散らす。特に開花前(開花前)の引き抜き完全撤去が必要。刈り払いでは萌芽・開花・結実するもので効果がない。花が自立した状態で越冬している場合もあるため周知徹底が必要。
8	対策優先種	キウ	オオハコグサ	<i>Rubricola laciniata</i>	○	定着	主に山地に広く定着。	草原、湿原、低木林	◎	△	△	○	人為的擾乱のある池沼・水路に速やかに侵入し広分布する。まずは当該地の特定と監視が必須。再生力が高く無性繁殖により群生し、秋に大量の種子を散らすため、駆除には複数年(開花前)の引き抜き完全撤去が必要。刈り払いでは萌芽・開花・結実するもので効果がない。花が自立した状態で越冬している場合もあるため周知徹底が必要。
9	対策優先種	ハゴロモモ	ハゴロモモ(アザミヤクイ、イカモン)	<i>Colubata caroliniana</i>	○	定着	東毛(板倉町)、西毛(安中市)に侵入し在来種を駆逐した事例がある。	池沼・溜池	◎	△	△	○	発生することがあるが、池沼から逃げることはなく、駆除範囲は広い。ただし、水域もしくは池の水を抜く際の駆除作業になるため安全確保が必須。
10	対策優先種	ユリ	シヤクボウユリ(新緑ユリ、カマユリ)	<i>Lilium x formosum</i>	○	定着	前橋市などの平野部及び皇後池周辺の路傍のほか、渋川市前橋町では利根川の露草にも生育している。	露草、低草の草地	◎	△	△	○	草やコンクリートのすき間に入り込むことがあり、駆逐まで引き抜くことが難しい。種子を大量に生産し爆発的に増殖する。駆除には複数年(開花前)の引き抜き完全撤去が必要。刈り払いでは萌芽・開花・結実するもので効果がない。花が自立した状態で越冬している場合もあるため周知徹底が必要。
11	対策優先種	トチカゲ	オオナガシヤ(アナカリス)	<i>Egeria densa</i>	○	定着	平野部の溜池・河川沿いの水域	溜池・河川	◎	○	△	○	アクアリウム等観賞用に意図的に導入された。人為的擾乱のある池沼・水路に速やかに侵入し広分布する。まずは当該地の特定と監視が必須。無性繁殖による群生し更に大量の種子を散らす。特に開花前(開花前)の引き抜き完全撤去が必要。刈り払いでは萌芽・開花・結実するもので効果がない。水域での駆除作業になるため安全確保が必須。
12	対策優先種	トチカゲ	ユカガタモ	<i>Elodea nuttallii</i>	○	定着	平野部から尾瀬沼・赤城大沼まで群馬県の広域に最も普通に見られている。	あらゆる水域	◎	○	△	○	アクアリウム等観賞用に意図的に導入された。人為的擾乱のある池沼・水路に速やかに侵入し広分布する。まずは当該地の特定と監視が必須。無性繁殖による群生し更に大量の種子を散らす。特に開花前(開花前)の引き抜き完全撤去が必要。刈り払いでは萌芽・開花・結実するもので効果がない。水域での駆除作業になるため安全確保が必須。
13	対策優先種	トチカゲ	アマノキ(アザミヤクイ、アザミヤクイ)	<i>Artemisia japonica</i>	○	定着	東毛(邑楽町)で定着しているほか2022年以降沼田市や前橋市からも記録されている。	池沼、溜池、河川の堤防周辺	◎	△	△	○	群馬県での分布は限定的だが、侵入地点は増加の兆候がある。特に県南部では越冬・定着の可能性が高い。いったん侵入すると駆除しにくく増えるため、侵入初期に駆除することが必要。分株による迅速に拡大する繁殖には、駆除しても子株が残りやすいため効果は低く、刈り払いでも効果がない。野外に放逐しないことが最も重要な対策である。
14	対策優先種	トチカゲ	外来セキショウモ(オオセキショウモ、シヤクボウユリ、シヤクボウユリ)	<i>Fallopia argentea, Fallopia spp.</i>	○	定着	群馬県の1河川(湯沢)で定着し、在来種への脅威に及んでいる。	河川	◎	△	△	○	群馬県での分布は限定的。侵入初期に駆除することが必要。流れのある水域での駆除作業となるため安全確保が必須。
15	対策優先種	アヤメ	キシヤク	<i>Iris pseudacorus</i>	○	定着	金糸の水辺に広く定着している。	河浜、池沼、溜池	◎	○	△	○	園芸用に意図的に導入され、拡大した。人為的擾乱地(水路、池沼、河川敷など)に速やかに侵入し広分布する。まずは当該地の特定と監視が必須。再生力が高く無性繁殖により群生するため、駆除には複数年(開花前)の引き抜き完全撤去が必要。刈り払いでは萌芽・開花・結実するもので効果がない。花が自立した状態で越冬している場合もあるため周知徹底が必要。
16	対策優先種	ヒメアザミ	オオアザミ(オオアザミ、オオアザミ)	<i>Eleocharis acicularis</i>	○	定着	平野部・丘陵地にいくつかの個体群があり、板倉町では越冬を確認している。	溜池、河川の堤防	◎	○	△	○	寒さに強い。冬には越冬することが多い。夏季、水面一面に株が広がった状態の回復は難しい。駆除には複数年(開花前)の引き抜き完全撤去が必要。刈り払いでは萌芽・開花・結実するもので効果がない。花が自立した状態で越冬している場合もあるため周知徹底が必要。
17	対策優先種	イグサ	ゴゴメ	<i>Juncus sp.</i>	○	定着	渋川市以南の池沼や河川沿い、さらに水田農業地に広く分布している。	河川、池沼、溜池、休耕田	◎	○	△	○	種間で多数の河川敷や放棄水田、背原周辺に分布し、県全域での駆除は難しいと考えられる。混った場所には駆除しにくく、また増えるため、侵入初期に駆除することが必要。分株による迅速に拡大する繁殖には、駆除しても子株が残りやすいため効果は低く、刈り払いでも効果がない。野外に放逐しないことが最も重要な対策である。
18	対策優先種	カヤツリグサ	メリアンガヤツリ	<i>Oxyria nigrescens</i>	○	定着	伊勢崎市以南の平野部に侵入し、雑草化している。	平野部の溜池、池沼、河川	◎	○	△	○	分布域が広いので全域での駆除は難しいと考えられる。河川に沿った分布する場合は水系帯での駆除計画が必要。引抜は容易だが、根が長く生育すると考えられるため、再生力が高い。また、刈り払いでも効果がない。野外に放逐しないことが最も重要な対策である。
19	対策優先種	イネ	メリアンガヤツリ	<i>Anthragoxon virginica</i>	○	定着	金糸、特に南部に広くみられる。	農家裏の草原、湿原、河川の草地	◎	△	△	○	絶滅危惧種の生育地によく生育する。駆除は種子が形成される前に刈り抜き、引き抜きは難しい。刈り払いは効果がないので、シャベルで取り除く。
20	対策優先種	イネ	シヤクボウユリ(オオセキショウモ、シヤクボウユリ、シヤクボウユリ)	<i>Eragrostis curvula</i>	○	定着	金糸の川沿いや路傍にすでに広く分布する。	河川敷	◎	○	○	○	県内では山岳部から平野部まで広く分布している。駆除は難しいと考えられる。混った場所には駆除しにくく、また増えるため、侵入初期に駆除することが必要。分株による迅速に拡大する繁殖には、駆除しても子株が残りやすいため効果は低く、刈り払いでも効果がない。野外に放逐しないことが最も重要な対策である。
21	対策優先種	イネ	オオウツキ	<i>Panicum dichotomiflorum</i>	○	定着	群生することは稀であるが、金糸的に多数化している。	溜池、休耕田、水田、河浜	◎	○	○	○	分布域が広いので全域での駆除は難しいと考えられる。一年草で地下部の発育がよくない。引抜は容易なほうである。ただし、在来種のオオウツキと区別が難しい。
22	対策優先種	イネ	オオウツキ	<i>Panicum distichum</i> var. <i>distichum</i>	○	定着	吾妻川以西の平野部では、水田雑草となるほど定着している。	平野部の水田、休耕田、溜池	◎	◎	△	○	世界に広がる水田の雑草で、水面上や水田に発生する。水流を耐え、再生能力が高く、根を深く張るため駆除は難しい。広域分布し農業被害、水流障害を起こしている。全面駆除方法はないので、重要地点での駆除撤去が効果的な方法はない。
23	対策優先種	イネ	オオウツキ	<i>Panicum distichum</i> var. <i>indicum</i>	○	定着	吾妻川以西の池沼や放棄水田に入り、雑草化する。このほか富岡市大塚でも定着している。	平野部の池沼、溜池、休耕田	◎	○	△	○	河川に沿った分布する場合は水系帯での駆除計画が必要。また、水田や池沼にも発生するため、単独での駆除計画が望ましい。水面上や水田に発生する。水流を耐え、再生能力が高く、根を深く張るため駆除は難しい。広域分布し農業被害、水流障害を起こしている。全面駆除方法はないので、重要地点での駆除撤去が効果的な方法はない。
24	対策優先種	イネ	セイロンモロコシ(シヤクボウユリ)	<i>Sorghum halepense</i>	○	定着	前橋・沼市以南の平野部や放棄水田に普通。幹線道路に沿って富岡や渋川でも確認されている。	河川敷	○	△	○	○	多年草で根が深く入り込み、駆除は難しい。駆除には複数年(開花前)の引き抜き完全撤去が必要。刈り払いでは萌芽・開花・結実するもので効果がない。花が自立した状態で越冬している場合もあるため周知徹底が必要。
25	対策優先種	ケン	白山の高山草のコマクサ	<i>Dicentra peregrina</i>	○	定着	本来のコマクサ分布域の群馬白土山脈のほか、日光白根山、野沢湖などで意図的に移植され、自然繁殖している。	群馬白土山(特に在来タイプが存在する地点)	◎	△	△	○	関係者の認識に混乱があるため、外来種体と在来種体で区別している。在来種体については、科学的な根拠に基づいた保全ができるよう、関係者の合意形成が必須。
26	対策優先種	キンギョソウ	セリハエンソウ	<i>Euphorbia corollata</i>	○	定着	前橋市近郊で広がっているほか、群馬山岳部でも群生を形成している。都市部よりもむしろ郊外や中山間地に広くみられる。	早春草の生育地	◎	△	○	○	分布域が広いので全域での駆除は難しいと考えられる。地下部は発達せず。花が自立した状態で越冬している場合もあるため周知徹底が必要。
27	対策優先種	マ	イタハギ(クマノハエンソウ)	<i>Amorpha fruticosa</i>	○	定着	金糸の山岳部や河川沿いにすでに広く分布する。	山岳部法面、河川敷	◎	△	△	○	緑化用・観賞用に意図的に導入され全国各地で定着している。人為的擾乱地(工事、狭小、河川敷など)に速やかに侵入し広分布する。まずは当該地の特定と監視が必須。根が深く入り込み、駆除は難しい。駆除には複数年(開花前)の引き抜き完全撤去が必要。刈り払いでは萌芽・開花・結実するもので効果がない。花が自立した状態で越冬している場合もあるため周知徹底が必要。
28	対策優先種	マ	エニシダ(エニシダ)	<i>Ostrya japonica</i>	○	定着	群馬では山岳部の法面に限定的。	尾瀬(駆逐する兆候はない)	○	△	△	○	低木で多数の分枝を出すため、除去には機械と隊員に頼らなければならない。また、刈り払いでも効果がない。野外に放逐しないことが最も重要な対策である。
29	対策優先種	マ	ハリエンジュ(ニセアナン)	<i>Rubia parviflora</i>	○	定着	金糸に普通。	ダム、河川敷、雑木林	◎	◎	◎	◎	河川敷での駆除は、国土交通省と群馬市町村の連携による広域協働方式が必須。木本でありながら萌芽再生を促すので、5年ほど連続で伐採し根を枯死させる必要がある。重要地点での駆除撤去が必要。河川敷に侵入した場合は農業利用の権利はないが、利用できると判断されているので周知徹底が必要。河川敷に侵入した場合は根が深く入り込み、駆除は難しい。駆除には複数年(開花前)の引き抜き完全撤去が必要。刈り払いでは萌芽・開花・結実するもので効果がない。花が自立した状態で越冬している場合もあるため周知徹底が必要。
30	対策優先種	マ	外来クマノハ(ヒロコクマノハ)	<i>Vicia villosa</i> ssp. <i>villosa</i> v. <i>villosa</i> ssp. <i>villosa</i>	○	定着	群馬の平野部のほか、沼田市や川場村にも記録がある。	河川敷	◎	△	△	○	つる性で、発生するため、駆除作業に多大な労力を要する。つるが伸び始める前に駆除することが重要。
31	対策優先種	ニギキ	ニウカラシ(シヤクボウユリ)	<i>Althaea officinalis</i>	○	定着	利根川本川では、月夜野町以南の河川沿いにすでに広く分布する。また湯沢市に定着し、群馬全域に広がっている。	河川敷	◎	△	△	○	天候の急変によって意図的に導入され全国各地で定着している。河川敷での駆除は、国土交通省と群馬市町村の連携による広域協働方式が必須。木本でありながら萌芽再生を促すので、5年ほど連続で伐採し根を枯死させる必要がある。重要地点での駆除撤去が必要。河川敷に侵入した場合は農業利用の権利はないが、利用できると判断されているので周知徹底が必要。河川敷に侵入した場合は根が深く入り込み、駆除は難しい。駆除には複数年(開花前)の引き抜き完全撤去が必要。刈り払いでは萌芽・開花・結実するもので効果がない。花が自立した状態で越冬している場合もあるため周知徹底が必要。